発行：蒲郡市役所総務部財務課　平成30年9月25日

蒲郡南地区 かわら版 第2号

蒲郡南地区 まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ

地区の課題とその解決方法について話し合いました。

蒲郡市では、今年度、蒲郡南地区（蒲郡中学校区）にある公共施設（小学校・中学校・保育園・児童館・公民館）の将来について、地区にお住まいの皆さまと協働で考えていく機会として、「まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ」を開催しています。8月19日(日)に蒲郡中学校にて開催された第2回ワークショップの内容をお知らせします。

また、ワークショップで話し合われている内容等についてのご意見を募集しています。いただいたご意見は、ワークショップ参加者の皆さんと共有し、検討を進めていきます。（裏面の「ご意見募集」をご覧ください。）

検討の進め方

蒲郡市は、このワークショップでのご意見をはじめ、地区の皆さまのご意見を踏まえて、蒲郡南地区の将来の公共施設の配置や活用方法を示す「地区個別計画」の検討を進めています。第２回ワークショップでは、「蒲郡南地区の課題」と「課題解決の方策」について話し合いました。

進め方確認 → **地区の課題・ビジョン** → 施設の再配置プラン → 再配置プランの比較 → 絞り込み・付帯事項 → 計画策定

8/19開催
第2回ワークショップ
地区の課題や課題解決のための方策について意見交換を行いました。

次回以降のワークショップでは、皆さんからいただいたご意見をもとに作成する「施設の再配置プラン」やそれらを比較するための「評価の視点」について検討を行う予定です。

ご意見を８つの視点にまとめ、各視点について検討しました。

第２回ワークショップでは、第１回ワークショップでのご意見を踏まえ整理した８つの視点をもとに話し合いを行いました。 以下は、８つの視点と各視点のもとになった第１回ワークショップでのご意見の抜粋です。

① 地域での活動・交流の盛り上がり
○ 若者をはじめ多世代に集まってもらうための工夫が必要　○ 学校区と行政区が異なり、地元行事や子ども会に参加しにくい

② 学校教育環境の適正化
○ 子どもの減少が予測されるため、教育的視点からの学校の統廃合が必要ではないか　○ 子どもの通学や地域とのつながりも含め考えるべき

③ 子育てしやすい環境づくり
○ 保育園・児童館と小学校などの子育て関連施設は隣接し、連携しやすい位置にあると便利で効率的

④ 高齢者のにぎわい
○ 高齢者が利用する施設と他施設を複合化すると相乗効果が生まれる ○ 高齢化が進むにつれ、高齢者の居場所として公共施設が大切になる

⑤ 防災・防犯
○ 防災・防犯を考えた施設やまちづくりが必要
○ 学校と他施設の複合化の際には防犯対策が必要

⑥ 利便性の確保
○ 駐車場不足や渋滞について考えるべき
○ コミュニティバスの導入を含め、利用者の利便性の確保が必要

⑦ 将来負担の縮減
○ 人口減少に伴い施設を減らす必要があるのではないか　○ 複合化すれば効率的になる

⑧ 運営の改善
○ 情報発信やイベントなどソフト面での工夫が必要
○ 公民館の夜間利用など制度の見直しにより利便性を向上させてほしい

人口でみる蒲郡南地区のすがた

蒲郡南地区の人口推移

蒲郡南地区は区画整理事業などの宅地整備が行われてきたこともあり、今まで大幅な人口減少はみられませんでした。

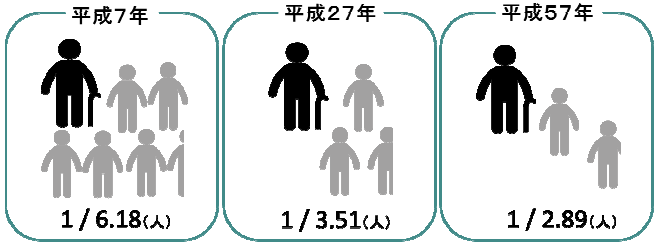
しかし、年齢区分ごとに平成7年から平成27年までの20年間の人口推移を見ると、高齢者人口は約2,000人増加している一方で、年少人口は約400人、生産年齢人口は約2,200人減少しています。

地区を支える若い世代が減少しており、今後もこの傾向は続く見込みです。

人口区分		平成7年	平成17年	平成27年	平成37年	平成47年	平成57年
高齢者人口（65歳以上）	目標値				4.768人	4.742人	4.735人
	実績値	2.839人	3.954人	4.850人			
生産年齢人口（15～64歳）	目標値				9.114人	8.145人	7.151人
	実績値	12.089人	10.662人	9.922人			
年少人口（14歳以下）	目標値				1.859人	1.790人	1.808人
	実績値	2.623人	2.315人	2.196人			
総計	目標値				15.741人	14.677人	13.694人
	実績値	17.551人	16.931人	17.038人			

※ 実績値は、国勢調査データに基づき算出（総計に年齢不詳を含む）
※ 目標値は「蒲郡市まち・ひと・しごと人口ビジョン」における目標人口の推計条件を蒲郡南地区に適用して算出

地区内の高齢化が進んでいます



上の表をもとに高齢者の割合を計算すると、平成7年には地区全体の人口のうち6.18人に1人が高齢者だったものが平成27年には3.51人に1人となり、30年後の平成57年には2.89人に1人となる見込みです。

今後は人口が減少する中で、高齢化がますます進み、地区内の3人に1人が高齢者の時代がやってきます。

ご意見募集

ワークショップに参加している方だけでなく、地区にお住まいのたくさんの方のご意見を踏まえて、「地区個別計画」の策定に向けた検討を進めていきます。

- **ワークショップで検討されている内容について**
- **蒲郡南地区のまちづくりや公共施設について**

ご意見をお待ちしています!!

日々の生活で感じている蒲郡南地区や地区の公共施設に関する些細なことで構いません。

下記のお問い合わせ先まで、メール・ファクス・郵便・持参により、どうぞお気軽にお届けください。
差し支えなければ、ご住所、お名前、年齢、性別、連絡先の記載をお願いします。

次回ワークショップについて

日時：　１０月７日（日）
午後１時30分～午後４時30分
場所：蒲郡中学校　図書室
内容：施設の再配置プランについて

どなたでも傍聴ができます。
傍聴ご希望の方は、
右のお問い合わせ先までご連絡ください。

お問い合わせ先

蒲郡市総務部財務課
公共施設マネジメント担当
〒443-8601　蒲郡市旭町17番1号
E-mail　zaimu@city.gamagori.lg.jp
TEL 0533-66-1158 / FAX 0533-66-1183

ワークショップについて、
詳しくは市HPをご覧ください。

http://www.city.gamagori.lg.jp/site/management/machizukuri-kokyoshisetsu.html

ワークショップでいただいたご意見

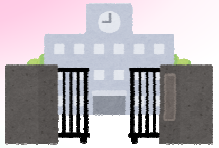
第１回ワークショップでの意見をもとにまとめた８つの視点について、追加すべき視点はないか、それぞれの課題に対し具体的にどのような解決方法があるのか話し合いを行いました。

①地域での活動・交流の盛り上がり

- 東部地域は蒲郡南地区の中でも別の地域としての認識が強い。他地域との施設統合はなじまない。再編するならば東部地域内で機能を集める方向ではないか。
- 公民館などで卓球やバドミントンなど高齢者と小中学生の交流といった多世代交流をすると利用促進になる。
- 小江地区には集会所がなく、公民館がコミュニティの中心になっている。現在の場所から公民館を移転することは難しいので、地区の集会所としてでも施設を残しておくことが望ましい。
- 乳幼児・小学生は児童館、大人は公民館など集まる場所があるが、中高生が遊んだり、集まれる場所がない。中高生が集う居場所や大人と交流できる場があるとよい。
- 高齢者が多く利用する公民館のような施設と、子どもたちが通う小中学校の複合化は世代間の交流が生まれ施設の利用も活発になる。

②学校教育環境の適正化

- 竹島小学校への府相公民館の移設は公共施設再編のモデルケースとなるので、地域としても積極的に進めていきたい。特に子育て世代の公民館利用を促すきっかけになることを期待している。
- （学校の統合については）運動場の確保や部活動の選択など、教育環境としてどれくらいの児童・生徒数が適正なのか、あくまで子どもたちの視点に立って考える必要がある。
- 学校区と行政区の境界線が異なる場所が多いので、小中学校の統廃合の際に一斉に見直しが必要である。



- 竹島小学校は、今後さらに児童数の減少が見込まれるので、学校の適正配置を考えるなら、南部小学校へ統合するべきではないか。

③子育てしやすい環境づくり

- 公民館の利用率が低いならば、もっと子育て支援に役立つ施設や利用法を考えるとよい。子育て支援センターのような機能を公民館が持つとよい。
- 共働きする家庭が当たり前になっているため、休日保育や病児保育などのサービスが充実するのがよい。
- 子どもの遊び場は児童館と公園が隣り合うように立地すると利用しやすい。
- 施設によってエアコンの有無等の環境が異なっている。子どもの遊びや学びの環境はどこも平等に確保してほしい。
- 保育園と小学校は同じ場所にあると、お迎えが一度にできてありがたい。特に災害時は、安全面でもよい。

- 子育て層にとっては、子育て関係の施設は、ひとつの箇所に集約されていたほうが便利である。
- 乳幼児が通う施設は、雨避けなどを設置し、雨にぬれずに施設に入れるようになるとよい。

④高齢者のにぎわい

- 公民館を利用して、元気なシニア層をトレーナーとして育成し、同世代の立場から健康づくりを支えられるようにして、活気づかせたい。
- 公民館は子育て層にはなじみが薄い施設なので、いっそ高齢者を中心とした元気な施設として整備した方が活気づいてよいと思う。
- 少子高齢化の時代でも、シニアの生産性を高めれば地域が元気になり活性化する。
- 公共施設の再編を進めた結果、施設までの距離が遠くなる高齢者も多くなるので、循環バスなどでつないで使いやすくなるように配慮してほしい。
- 高齢者が集まる場所がアクセスしやすければ、孤立化も防ぐことができ、地域とのかかわりも持てる。

⑤防災・防犯

- 津波や、猛暑の中の空調、通学路の安全、防犯など、子どもの安全な環境を第一としたい。
- 保育園はどこでも通園してよいことになっている。津波浸水想定区域内にある府相保育園と三谷西保育園は学校区が異なるが、統合して安全な場所に移るのはありだと思う。
- 津波浸水想定区域にある施設は、安全な場所への移転が必要である。

- 災害時に保育士だけで園児を避難させるのは大変なので、日ごろから地域との関係作りをし、いざという時に協力し合って避難できるとよい。
- 防犯については、「公共施設の複合化に伴う防犯」という視点に絞り込んだほうがよいのではないか。
- 公共施設が減少しても、身近な避難所や収容人数が不足しないように、計画的に確保してほしい。
- 竹島小学校は避難所に指定されているが、竹島周辺は観光地でもあるので、観光客も含めた災害時の対応を考えなければならない。

⑥利便性の確保

- 公民館は、設備が古くて利便性が悪いので若い世代にとって気軽に使いにくい。
- 保育園や児童館は車での利用が多いので、十分な駐車場が必要である。
- 高齢者や小学生が居場所となる施設、利用する施設は利用しやすさ、集まりやすさを考え、歩いていける場所にあるとよい。
- 中高生が利用する施設には自転車置き場が必要。
- アクセス向上だけでなく、道路の整備も進めてほしい。特に、各施設に行くまでの歩道の整備は重要である。

⑦将来負担の縮減

- 小江公民館は駐車場が少なく、他の公民館とのバランスを考慮しても現地での建替えは考えにくいのではないか。
- 施設再編にあたっては、公共施設周辺の地域の状況や利用者数に応じて、施設の設置目的や用途を柔軟に見直していくことが求められる。

⑧運営の改善

- 公民館でどんな活動ができるかわかりやすく伝え、住民がどんなことをやりたいのか聞いてもらえる機会があるとよい。
- 公民館は、夜間利用やインターネットでの予約確認など貸館業務を充実させ、利用率を上げる工夫が必要である。
- 施設の維持管理コストを下げる、効率的に質の高い運営を行うために、民間のノウハウや活力を導入するべき。